

令和元年5月の解説（府県天気予報）

【5月の天候状況】

北日本から西日本にかけては、天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くありました。このため、北日本、東日本、西日本では、月間日照時間がかなり多く、月降水量は少ない地方が多くなりました。特に、西日本の日本海側では月降水量がかなり少なく、1946年の統計開始以来5月として1位の少雨となりました。

低気圧は沿海州からサハリン付近を通ることが多く、日本の東で高気圧が強かったため、北日本から西日本にかけては暖かい空気が入りやすくなっていました。また、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、気温はかなり高くなりました。特に、北日本の月平均気温は平年差が+2.7℃となり、1946年の統計開始以来5月として1位の高温となりました。

上旬は、北日本から西日本にかけては高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くありました。このため、日照時間は北日本、東日本、西日本で多く、降水量は東日本、西日本で少なくなりました。また、低気圧はサハリンから千島近海を通過することが多く、北日本は西から暖かい空気が入りやすかったため、平均気温は高くなりました。一方、沖縄・奄美では、湿った空気や前線の影響で曇りや雨の日が多くありました。

中旬は、日本の東で高気圧の勢力が強く、北日本、東日本、西日本に暖かい空気が入りやすかったため、平均気温はかなり高くなりました。また、高気圧に覆われやすかったため、北日本、東日本、西日本の日本海側では日照時間が多く、降水量は少なくなりました。一方、西日本の太平洋側や沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすかったために降水量が多くなり、13日は与那国島で大雨となったほか、18日には屋久島でも大雨となりました。

下旬は、全国的に高気圧に覆われやすく、日照時間が多くなりました。また、低気圧は沿海州付近で発達することが多く、北日本から西日本にかけて暖かい空気が流れ込みやすかったことや、高気圧に覆われて晴れたことから、気温はかなり高くなりました。特に、北日本は、旬平均気温が平年差+4.3℃と、1961年の統計開始以来、5月下旬として1位の高温となりました。

【5月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)よりも5ポイント高い91%で、明後日予報は例年値よりも7ポイント高い89%でした。地方別の適中率では、明日予報はすべての地方で例年値を上回りました。明後日予報は、沖縄地方で例年値と同じだった以外は、すべての地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.4℃小さい1.5℃で、沖縄地方で例年値と同じだった以外は、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.2℃小さい1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7月の中旬～下旬に、九州地方から東北地方にかけて梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7月は梅雨末期の大雨が起こりやすい時期でもあります。梅雨期は、その他の期間に比べて総降水量が多くなり、梅雨末期を中心に、集中豪雨により大きな災害がもたらされることがあります。早期注意情報(警報級の可能性)や最新の気象情報、警報・注意報などに留意してください。